

目次／特別展「スポーツ博覧会いわて」第25回国民大会開会式表紙／
いわて文化ノート「南部氏発祥の地・山梨県南部町の南部氏関係史
跡」 p.2-3／展覧会案内「特別展 スポーツ博覧会いわて」 p.4-5
展覧会案内「2020年東京オリンピック・パラリンピックがやってくる－
秩父宮記念スポーツ博物館岩手巡回展－」 p.6-7／インフォメー
ション p.8

特別展

スポーツ博覧会いわて

2016年9月22日(木・祝)～11月27日(日)



第25回国民体育大会開会式

第25回国民体育大会夏季大会、秋季大会は昭和45年(1970)に岩手県で開催されました。「誠実・
明朗・躍進」のスローガンのもと、夏季・秋季合わせて33競技が行われ、約21,000名の選手・役員
が参加しました。

■いわて文化ノート

南部氏発祥の地・山梨県南部町の南部氏関係史跡

専門学芸員 佐々木 康 裕 (歴史部門)



南部橋上からみる富士川・戸栗川合流点と、その北に広がる南部氏発祥の地

1 南部氏と岩手の関わり

中世から近世にかけての岩手県の歴史を考える際、避けては通れないのが南部氏の存在です。

南部氏は八幡太郎義家の弟、新羅三郎義光を祖とする甲斐源氏の一族で、鎌倉幕府草創期に源頼朝に従って数々の軍功を立てた加賀美遠光の三男光行が、甲斐国南部郷(山梨県南部町)を領有し、南部氏を名乗ったことからその歴史が始まりました。

昨年来南部氏に関する研究を進めてきた私は、今回、この南部氏発祥の地である山梨県南部町を実際に訪ね、南部氏関係史跡を巡るとともに、南部町の景観を実見したいと考え、先日調査に赴きました。本稿ではその調査に基づき、読者の皆様に南部氏発祥の地としての南部町をご紹介します、それをもって南部氏について考える起点を提供できればと思います。

2 南部氏発祥の地・南部町

(1) アクセス

最初に、岩手県から山梨県南部町への交通アクセスをご説明します。

まず岩手県内から新宿を目指し、そこから「特急かいじ」に乗り山梨県に向かいます。盛岡から甲府までは、合計4時間余りの行程です。

次に、甲府からJR身延線に乗り換える

こととなります。「特急ふじかわ」で文字通り富士川に沿って南下し、内船駅で下車します。甲府から内船までの所要時間は特急で1時間、各駅停車だと2時間です。この内船駅の所在地が南部町、ここがまさしく南部氏発祥の地です。

(2) 山梨県南部町の史跡

前述の通りJR身延線は富士川に沿って走っており、線路の東側は狭小な平地と高い山々、西側に富士川の流れと平地が広がっています。

今回は、数々の南部氏関係史跡が点在する内船駅の西側へ降り立ち、一路、富士川にかかる南部橋を目指しました。



南部橋

内船駅から南部橋までは徒歩で数分です。橋を渡らずにそのまま身延線に沿って北上すると身延町、ここは根城南部氏の祖にあたる波木井南部氏の本拠地で、鎌倉時代に波木井実長が日蓮を招いたことで知られ、日蓮宗の総本山・身延山久遠寺の所在地として有名な地です。

今回の私の調査は実長の父・南部氏初代光行の本拠地を訪ねることが目的だったため、身延方面には向かわず、南部橋を渡りました。

橋を渡り終えた所にある交差点から右、つまり北へ向かって川沿いに歩を進めると、昔ながらの商店街が出現します。この道沿いに南部氏関係の史跡は点在しています。以下、いくつか具体的にご紹

介することになります。

① 諏訪神社

諏訪明神社には上下両社があり、南部氏の遠祖にあたる新羅三郎源義光が勧請したと伝えられています。

このうち下諏訪社は、正中2年(1325)、三戸南部家10代当主茂時によって再建されたことが記された棟札があったともいわれています。もしこれが真実であれば、実在が疑問視される向きもある茂時について解明する上で貴重なものと言えます。



諏訪神社

② 浄光寺

浄光寺は臨済宗妙心寺派で山号を瑞雲山といい、阿弥陀如来を本尊とする寺院です。開山は大覚禅師、すなわち蘭溪道隆といわれています。

蘭溪道隆は南宋の人で、臨済禅を広める大志を抱いて来日しました。また、鎌倉幕府5代執権北条時頼に請われて、鎌倉の建長寺を創建しその開山となった人物としても有名です。

かつてこの寺の裏山中腹にあった南部氏一族の墓石群は、昭和41年(1966)の台風で斜面が崩落したため、後年現在地に南部氏供養塔が建てられ、墓石群もその背後にまとめられました。

現在の供養塔の傍らにある墓誌によると、南部氏一族の墓石群は鎌倉時代から南北朝時代のものであり、山梨県内では

最も古いものと言われています。

この墓石群の存在から考えると、鎌倉から南北朝時代にかけて、当主自身かどうかは別としても南部氏一族のいずれかの人物が、終始または断続的にこの地に居住していたことが推測されます。



浄光寺境内の南部氏供養塔
背後の小屋の中に歴代の墓石がおさめられています

③妙浄寺

妙浄寺は、もとは大日山妙泉寺と称し、真言宗であったが、日蓮が身延へ入山する際、文永11年(1274)5月16日この寺に一泊し、住持大輪法印が日蓮に帰依して改宗、自身も日寿と改名したと言われています。

この寺は南部氏が当地を領していた時代の菩提寺で、寺紋として「向鶴紋」を使用しています。尚、この紋は外側に丸がつかない紋であるため、三戸(盛岡)南部氏ではなく根城南部氏と共通の紋であり、その点、南部氏の歴史的展開を考える上で興味深いと言えます。ただ、一般に家紋というものが成立し世の中に定着したのは中世前期よりも後であるとの見解も見受けられることから、その点も考慮した考察が求められるように思われます。

本堂の裏手には「八幡屋敷」といわれる場所があったそうです。かつてここには八幡社があり、三戸南部家2代当主実光が承久2年(1220)三戸へご神体をうつし、それが現在の八戸市の櫛引八幡宮につながるという言い伝えもあるとの

ことです。



妙浄寺の賽銭箱
根城南部氏と同じ向鶴紋が寺紋として採用されています

④新羅神社

南部町の新羅神社は、建久年間に南部光行が遠祖である新羅三郎義光の霊廟として建立され、一門の守護神とされたものと言われています。

また10代茂時と元時らが相次いで神詞を奏し累代祭祀を続けてきたものの、明治維新後に社殿は荒廃したと伝わっています。現在は祭祀が復活し、10月に例祭をとりおこなっているとのこと。



新羅神社

⑤南部館址碑

富士川沿いの一本道を北上していくと、右側すなわち川沿いの小高い丘のような地形が現れます。その傍らに、「南部館址碑」が建てられています。

碑文によると、この石碑は大正元年(1912)8月に、盛岡南部家の子孫で、初代光行から数えて43代目の当主である伯爵南部利淳が建立したものであることがわかります。

碑文の中には、初代光行の事績と糠部拝領、2代実光が糠部を承継したこと、光行の六男波木井実長と日蓮の関係などを述べ、父祖の勲功を称える内容となっています。

この碑の所在地は富士川に面した高台で、川沿いの平地や舟運を一望できる、まさに絶好の地です。



南部氏館址碑

3 まとめ

以上の南部氏関係史跡は、富士川と戸栗川の合流点付近に広がる盆地とその周辺区域に点在していました。

こうした町の姿は、馬淵川・熊原川の合流点付近に広がる盆地を中心とした三戸、北上川・中津川・雫石川の合流点に広がる盆地を中心とした盛岡の景観とも重なり合います。南部氏(三戸南部氏)は、山梨県南部町で誕生し、その後、類似の景観を有する三戸で中世から近世への変革期を乗り越え、やがて近世の城下町盛岡を作り上げていったのです。

■展覧会案内

特別展 スポーツ博覧会いわて

会期：平成28年9月22日(木・祝)～11月27日(日) 会場：特別展示室

今年、岩手県で昭和45年（1970）以来46年ぶりとなる、第71回国民体育大会本大会（希望郷いわて国体）及び第16回全国障害者スポーツ大会（希望郷いわて大会）が開催されます。特別展「スポーツ博覧会いわて」は、希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の開催を記念し、これまでの岩手のスポーツの歩みを紹介する展覧会です。

1 みちのく国体への道

第25回国民体育大会（みちのく国体）の岩手県での開催は昭和41年7月に内定し、翌年に正式決定しました。国体誘致の歴史は昭和30年代前半にさかのぼ



千田正書簡（盛岡てがみ館蔵）

ります。上の写真は当時の千田正岩手県知事が、出張先のパリで開催内定の報せを受けた際に書いたはがきです。千田知事は、国体の内定を「生涯の感激」と記しています。みちのく国体の内定によって、競技力向上の取り組みとともに、競技施設や交通網など、岩手県内の整備が行われました。また、競技会場となった各市町村では、選手や役員を迎えるための準備が住民によって進められました。夏季大会は4競技が行われ、岩手県はボート競技で総合優勝を果たしました。10月10日に開幕した秋季大会は6日間の日程で開催され、岩手県は9競技で総合優勝を果たし、天皇杯を獲得しました。また、10月24・25日には第6回全国身体障害者スポーツ大会が開催されました。

天皇杯レプリカ
(公益財団法人岩手県体育協会蔵)

2 岩手のスポーツ人 ～開拓者たち～

久慈次郎（1898年－1939年）は、社会人野球チーム函館太洋倶楽部のキャッチャーとして活躍しました。昭和9年（1934）には日米野球の全日本選抜メンバーとして日本各地でアメリカ選抜と対戦しました。久慈とバッテリーを組んだピッチャーの沢村栄治は、静岡草薙球場での一戦で失点をルー・ゲーリッグの1点に抑える好投を見せました。

久慈は昭和14年（1939）に札幌の



久慈次郎とベーブ・ルース（個人蔵）

円山球場での試合中にボールが頭部に当たり、亡くなりました。昭和22年（1947）に久慈の功績を記念して都市対抗野球大会に「久慈賞」が設けられました。昭和34年（1959）には、第1回の野球殿堂入りを果たしました。

日米野球入場券
(公益財団法人野球殿堂博物館蔵)

工藤孝一（1909年－1971年）は旧制盛岡中学校から早稲田大学に進学し、本格的にサッカーを始めました。早稲田大学ア式蹴球部（サッカー部）の監督を務めたほか、昭和11年（1936）のベルリンオリンピックでは日本代表のコーチとして戦術面でチームを支え、1回戦で強豪スウェーデンに3-2で歴史的勝利を収めました。戦後は岩手県内の高校でサッカーを指導し、普及・発展に努め

工藤孝一ベルリンオリンピック
デレゲーションユニフォーム
(岩手県立盛岡第一高等学校蔵)

るとともに、再び早稲田大学で指揮を執り、メキシコ・シティーオリンピックで日本代表の主将を務めた岩手県出身の八重樫茂生のほか、釜本邦茂らを育てました。

佐々木七恵（1956年－2009年）は高校から陸上競技に取り組み始め、大学までは中距離選手として活躍しました。大学卒業後は岩手県内の公立学校に勤務

しながら競技を続け、マラソンに取り組み始めます。昭和57年（1982）7月に公立学校を退職して瀬古利彦らが所属するエスビー食品に入社し、ロサンゼルスオリンピックを目指して、中村清監督の指導を受けました。



佐々木七恵長距離用シューズ（個人蔵）

昭和58年（1983）11月の第5回東京国際女子マラソンで初優勝し、オリンピックの女子マラソン日本代表となりました。翌年のロサンゼルスオリンピックでは19位。昭和60年（1985）の名古屋国際女子マラソンでの優勝を最後に引退しました。

～さばく～

大相撲の立行司第27代木村庄之助（本名：熊谷宗吉1925年ー）は昭和10年（1935）夏に、大相撲の巡業で盛岡滞在中の8代木村庄三郎（のちの19代式守伊之助）に勧められて、弟子入りしま



第27代木村庄之助軍配
（公益財団法人日本相撲協会相撲博物館蔵）

した。昭和11年（1936）1月に木村

宗吉として初土俵。

昭和49年（1974）1月に行司の最高位である立行司の23代式守伊之助を襲名。昭和52年（1977）11月に最年少の51才で27代木村庄之助となり、平成2年（1990）に引退するまで、13年間79場所にわたって務めました。

～王国岩手の誕生～

新日鐵釜石ラグビー部は、昭和34年（1959）に、前身の富士製鉄釜石製鉄所のラグビー部として発足しました。昭和45年（1970）に富士製鉄と八幡製鉄が合併して新日本製鐵へ社名変更すると、チーム名も「新日鐵釜石」となりました。同年に全国社会人大会で初優勝を果たし、昭和51年（1976）に全国社会人大会で2度目、日本選手権で初優勝



新日鐵釜石ジャージ
（釜石シーウェイブスRFC蔵）

を果たしました。森重隆や松尾雄治ら日本代表選手を擁したチームは、昭和53年（1978）から昭和59年（1984）まで日本選手権で7連覇しました。

3 復興とスポーツ

希望郷いわて国体・希望郷いわて大会は、「復興のシンボル」と位置づけられる大会です。本展覧会を通じて、岩手のスポーツの底力をぜひご覧下さい。

（専門学芸調査員 原田祐参）



岩清水梓メッセージ入り日章旗
2011FIFA女子ワールドカップドイツ（岩手県蔵）

《関連イベント》

文化講演会

「挑戦する心」

11月3日(木・祝) 13:30～15:00

講師 松尾 雄治氏

（元新日鐵釜石ラグビー部）

日曜講座

「[スポーツ博覧会いわて]の舞台裏」

9月25日(日) 13:30～15:00

講師 原田 祐参 (当館学芸員)

「障害を乗り越えて～車椅子バスケットボールの指導を通して～」

10月9日(日) 13:30～15:00

場所：岩手県立美術館

講師 岩佐 義明氏

（宮城MAXヘッドコーチ）

「審判から見た世界の舞台」

11月13日(日) 13:30～15:00

講師 高橋 早織氏

（サッカー女子一級審判員）

ギャラリートーク

①9月24日(土) 14:00～15:00

佐藤 洋太氏

（ボクシングWBC第23代

世界スーパーフライ級王者）

②10月23日(日) 11:00～12:00

小沢 みさき氏

（北京オリンピックホッケー

女子日本代表）

スポーツ実演

9月22日(木・祝) 11:00～11:30

武術太極拳演武

（岩手県太極拳協会）

11月19日(土) 11:00～11:30

なぎなた演技

（岩手県立盛岡第二高等学校）

ニュースポーツ体験

10月16日(日)

国体のデモンストレーションスポーツである、ペタンクやクubb、インディアカを体験しませんか？

■展覧会案内

2020年東京オリンピック・パラリンピックがやってくる — 秩父宮記念スポーツ博物館岩手巡回展 —

会期：平成28年9月22日(木・祝)～11月27日(日) 会場：いわて文化史展示室

本展覧会は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、スポーツ遺産を日本全国の皆さんに広げるために企画されました。昭和39年（1964）の東京オリンピックを中心に、日本が初出場した1912年のストックホルムオリンピックから2020年に迎える東京オリンピック・パラリンピックにいたるまでの歴史を紹介いたします。

第1章

日本のオリンピック参加黎明期

日本が初めてオリンピックに参加したのは、1912年の第5回大会です。上流階級で定着していたスポーツが、大正時代には学校教育に取り入れられるなど、身近なものとして普及しました。国民の関心の高まりに合わせて、オリンピックでは、1920年の第7回大会、1924年の第8回大会で日本の選手が連続してメダルを獲得しました。1928年の第9回大会では、三段跳で織田幹雄が日本初の金メダル、800m走で人見絹江が2位となりました。日本は1932年の第10回大会、1936年の第11回大会でも活躍し、国民の関心も高まりました。



友情のメダル（西田修平・大江季雄）
1936年 秩父宮記念スポーツ博物館蔵

日本は1940年の第12回大会を誘致することに成功しましたが、日中戦争の激化によって開催を返上しました。ここでは、各大会の日本の活躍ぶりを紹介します。

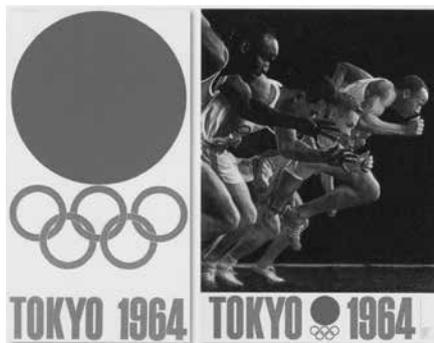
第2章

1964年東京オリンピック・パラリンピック

メインスタジアムの国立競技場をはじめとして、各施設の建設・整備によって東京の風景が一変するとともに、オリンピックへの期待は、国民の生活に大きな変化をもたらしました。



デレガーションユニフォーム（小野喬）
1964年 秩父宮記念スポーツ博物館蔵



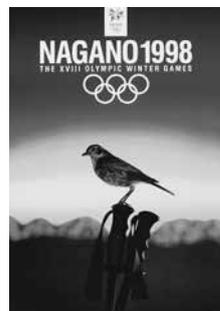
公式ポスター（第1号）1961年、左
公式ポスター（第2号）1962年、右
秩父宮記念スポーツ博物館蔵

第3章

日本で行われた冬季オリンピック

第11回冬季札幌オリンピックは、1972年2月3日から13日までの日程で開催されました。スキージャンプ70m級では日本選手が金・銀・銅を独占し、「日の丸飛行隊」として日本中が歓喜の渦に包まれました。

第18回冬季長野オリンピックは、1998年2月7日から22日まで行われました。日本はノルディックスキージャンプ団体で金メダルを獲得したほか、冬季オリンピック史上過去最高の成績を残しました。



長野オリンピック
公式ポスター（第1号）
1994年
秩父宮記念スポーツ
博物館蔵

第4章

新しい日本そして輝く未来へ

2020年、56年ぶりのオリンピックが東京で開催されます。ロンドン大会で16個のメダルを獲得したパラリンピアン活躍も期待されます。

第5章

岩手ゆかりの選手

岩手にゆかりのオリンピック・パラリンピックのメダリストを紹介します。獲得したメダルとともに、選手が実際に着用したウェアなども展示します。



アルペールビルオリンピック
スキージャンプ用ウェア（三ヶ田礼一）
1992年 八幡平市博物館蔵

《関連イベント》

講演

「トップアスリートを支える」
～国立スポーツ科学センターのサポート事例から～

11月19日（土）第1部 13:00～14:00
第2部 14:15～15:15

「トップアスリートをサポートする
スポーツバイオメカニクス」

講師：窪 康之氏

（国立スポーツ科学センター
スポーツ科学部）

「国立スポーツ科学センターの心理
サポートと研究」

講師：佐々木 文予氏

（国立スポーツ科学センター
スポーツ科学部）

■事業報告

第71回地質観察会 釜石鉱山跡をさぐる

平成28年7月3日(日)

釜石市内を東西に流れる甲子川でパンニングすると、小さな鉄の塊が多く採集できます。こんなに多くの鉄の塊が採集できるのは県内では他に例がなく、日本の近代化の礎となり、鉄を産出した釜石鉱山の大きさを証明していると思います。

開会行事後に山澤茂行代表取締役社長から釜石鉱山周辺の地質の説明を受け、スタッフを含め33名が坑道内にトロッコ列車で入って行きました。「坑道内は寒いので、冬の防寒着が必要です」とあらかじめ言われていた通り、ヒヤッとした感じを受けました。まずは、坑口から約3km地点にある「仙人秘水」原水採水地点です。側面の岩盤からこんこんと水が湧き出ていました。鉱山職員からこの原水を飲料用として製造していることや、化粧品にも使われている説明があり、説明後は全員が原水を飲ませていただきました。



原水をコップに汲んでいる様子

坑道内は支保工と呼ばれる壁や天井を支える仮設構造物で補強されず、ほとんど剥き出しの状況であることから、頑丈な岩盤であることを実感しました。

坑口から約1.4km地点までもどり、鉄鉱石の採掘跡を見学しました。鉄鉱石、銅鉱石、白色石灰岩などの実物資料を見ながら説明を受けた後に、掘削機械、ダイナマイトを装着するための穴があいた



採掘跡の説明

岩盤、釜石鉱山のように岩盤が強固な鉱床だけにできる採鉱法などの説明を受けました。その後、約150m下の縦坑跡に溜まっている水に岩石片を落下させ、岩石片が水面をたたきつけ岩盤に反響する「ゴーツ」という音に全員が感激しました。

さらに坑口から約0.8km地点までもどり、グラニットホール(音響実験室)で、デモテープによる立体的な音の響きを体感しました。



グラニットホール

午後はリニューアルオープンした旧釜石鉱山事務所を見学しました。2階にある鉱物展示室では、山澤茂行氏から鉱山の概略やスカルン鉱物の説明などを受けました。

この展示室には、様々な鉱物、岩石資料とともに釜石鉱山で発見され命名された「釜石石」や、社長室に飾られていたと言われる「磁鉄鉱の大きな結晶」と「黄鉄鉱の結晶」が展示されていました。

最後に事務所裏にあるズリ山から鉱物・岩石を採集しました。通常は採集で



山澤社長の説明に聞き入る参加者

きないとあって、参加者は童心に返って集めていました。このズリは約5cmサイズの岩石片で、鉄鉱石、銅鉱石、赤色スカルンや緑色スカルンなどが置かれていました。スカルンとはマグマが石灰岩に貫入したときに、石灰岩の成分とマグマの成分が反応して新たな鉱物を生じたものです。赤色スカルンとはザクロ石と磁鉄鉱が生成されているもので、緑色スカルンは透輝石と緑れん石などでできた岩石で、銅鉱石が生成されます。

天気予報から荒天を予想されましたが、午前中に小雨が降った程度で、閉会時には晴れ間がみえる天気となりました。釜石鉱山は通常は見学できない場所で、今回の地質観察会では特別に許可していただきました(通常は坑道内はもちろんのこと、敷地内には無断で入れません)。

坑道内の見学、旧釜石鉱山事務所の資料説明、ズリ山の提供と一日中対応していただいた山澤茂行代表取締役社長をはじめ職員の方々や、旧釜石鉱山事務所での展示解説をしていただいた釜石市職員の方々に厚く御礼を申し上げます。

(学芸第三課長 吉田 充)



岩手県立博物館

IWATE PREFECTURAL MUSEUM

インフォメーション (2016.9.1~2016.12.31)

お知らせ

●資料整理に伴う休館

平成28年9月1日(木)~平成28年9月10日(土)は資料整理のため休館します。

●敬老の日 65歳以上入館無料

平成28年9月19日(月・敬老の日)は、65歳以上の方は無料で入館できます。

●いわて文化史展示室閉鎖

いわて文化史展示室は秋の展覧会会場として使用するため、平成28年8月上旬から平成28年12月19日(予定)まで通常の展示をお休みします。

展覧会

●特別展「スポーツ博覧会いわて」

9月22日(木・祝)~11月27日(日) 特別展示室

※詳細はp.4-5展覧会案内記事をご覧ください。

◆ギャラリートーク 特別展示室・要入館料

ゲストスピーカーが実物資料や写真を交えて語ります。

9月24日(土)14:00~15:00

佐藤洋太氏(ボクシングWBC第23代世界スーパーフライ級王者)

10月23日(日)11:00~12:00

小沢みさき氏(北京オリンピックホッケー女子日本代表)

◆スポーツ実演 11:00~11:30

9月22日(木・祝) 武術太極拳演武(岩手県太極拳協会)

11月19日(土) なぎなた演技(岩手県立盛岡第二高校なぎなた部)

◆朗読イベント「Letters~手紙にみるドラマ」(IBCアナウンサー)

10月16日(日)①13:00~13:30 ②15:00~15:30

会場: 講堂 定員120名 参加無料 当日整理券配付

◆ニュースポーツ体験

10月16日(日) 岩手県立博物館 芝生広場 参加無料

ペタンクやクップ、インディアカを体験してみませんか?

◆県博日曜講座 下記「県博日曜講座」の欄をご覧ください。

●「2020年東京オリンピック・パラリンピックがやってくる」

一秩父宮記念スポーツ博物館岩手巡回展-

9月22日(木・祝)~11月27日(日) いわて文化史展示室

◆関連講座 11月19日(土)

「トップアスリートを支える」

~国立スポーツ科学センターのサポート事例から~

第1部 13:00~14:00 第2部 14:15~15:15 場所: 当館講堂

「トップアスリートをサポートするスポーツバイオメカニクス」

窪 康之 氏(国立スポーツ科学センター)

第2部「国立スポーツ科学センターの心理サポートと研究」

佐々木丈予 氏(国立スポーツ科学センター)

●テーマ展「大津波と三陸の生き物」

12月17日(土)~平成29年2月26日(日) 特別展示室 2011年3月11日の大津波が三陸の生き物に与えた影響とその後の変化を追いかけてみます。

文化講演会(特別展タイアップ事業)

11月3日(木・祝) 13:30~15:00 講堂 聴講無料

「挑戦する心」松尾 雄治 氏(元新日鐵釜石ラグビー部)

整理券を10月27日(木)10:00~11月2日(水)15:00までの開館時間中に岩手県立博物館で配布します。整理券の配布は、お一人様につき2枚まで。なくなり次第終了いたします。入場時に整理券をご持参ください。

県博日曜講座

第2・第4日曜日 13:30~15:00 当日受付 聴講無料

当館学芸員等が岩手の文化や歴史、自然について解説します。

*展覧会関連講座(氏名の横に表記のない場合は当館学芸員です。)

10/9と11/13は10時から整理券を配布します。(10月9日(日)は岩手県立美術館にて)1人2枚まで。

9月11日「俘囚の大寺院 国見山麿寺」杉本良氏(北上市立博物館)

※考古学セミナー講演会を兼ねる

*9月25日「『スポーツ博覧会いわて』の舞台裏」原田祐参

*10月9日「障害を乗り越えて~車椅子バスケットボールの指導を通して~」岩佐義明 氏(宮城MAXヘッドコーチ)

10月9日の会場は岩手県立美術館のホールです。ご注意ください。

*10月23日「海を渡った鉄一蔵手刀・鉄鍋・南部鉄一」赤沼英男

11月13日「審判から見た世界の舞台」高橋早織 氏(サッカー女子一級審判員)

*11月27日「新たな展開をむかえつつある本州のクマゲラ」藤井忠志

12月11日「魂の行方」小野寺俊彦

*12月25日「繰り返し訪れる津波と三陸の生き物」鈴木まほろ

週末の催し

◆ミュージアムシアター ※9月はお休みします。

毎月第1土曜日 13:30~15:00頃 前後 講堂 当日受付 視聴無料

10月1日「秋のアニメ特集」(68分/アニメ/幼児~)

オズの魔法使い 不思議の国のアリス

お月様とうさぎ おじいちゃんはボクのヒーロー

11月5日「映像で振り返る 僕らの昭和 スポーツ/文化芸能編」(140分/一般)

12月3日「冬休み直前クリスマス特集」(85分/アニメ/幼児~)

神様がくれたクリスマスツリー 年神様とお正月

きもだめしのぼん くるみ割り人形 三匹のこぶた

◆伝統芸能鑑賞会 遠野郷のしし踊り~駒木鹿子踊単独公演~ 観賞無料

10月29日(土)①10:30~11:30 一庭、柱がかり

②13:00~14:30 一庭、雌鹿狂い、鹿酒盛り

◆チャレンジ!はくぶつかん

毎月第2・第3土曜、日曜、祝日 小学生向け 随時受付

チャレンジ!マークをさがして はくぶつかんをたんけん!

9月17日・18日・19日・24日・25日 テーマ:新

10月 8日・9日・10日・15日・16日 テーマ:戦う・競う

11月12日・13日・19日・20日 テーマ:体

12月10日・11日・17日・18日 テーマ:白

◆イワテミュージアムコンサート

10月 2日(日)吉川よしひろ 定員120名 こどもから大人まで

11:00開演 講堂

12月24日(土)トリオ・ヴィオレ 乳幼児~小学生

13:30開場 14:00開演 講堂

◆たいけん教室~みんなのためそう~(事前申込制)

毎週日曜日 13:00~14:30 幼児(保護者同伴)・小学生20名程度

さまざまな遊びやものづくり、実験を体験してみましょう。

※4月から全プログラム有料となりました(材料費代/プログラムごとに異なります)。

※要事前申込み。開催日の1週間前の日曜日から電話または博物館で開館時間(9:30~16:30、休館日を除く)に先着順に受け付けます。1度に3名まで予約可能です。予約状況・材料費代はホームページでご確認ください。

9月	4日	お休み	10月	2日	ふしぎなビー玉おもちゃ
	11日	3Dメガネで万華鏡		9日	スライムであそぼう
	18日	ほのぼのあかり		16日	博物館まつり
	25日	縄文人のイヤリング		23日	葉っぱのカラフルカード
				30日	砂絵
11月	6日	手づくり万華鏡	12月	4日	まゆで干支づくり(酉)
	13日	松ぼっくりのXmasツリー		11日	オリジナル卵をつくろう
	20日	松ぼっくりのXmasツリー		18日	かんたん門松づくり
	27日	まゆで干支づくり(酉)		25日	たこづくり

博物館まつり

◆第8回岩手県立博物館まつり

10月16日(日)9:30~16:00 当日受付 一部定員あり 参加無料

さまざまなコーナーに参加して、博物館をもっと楽しもう!

冬のワクワク!ワークショップ

12月23日(金・祝)対象: 幼児 詳細はお問い合わせください

定時解説

平日~土曜日 13:30~14:30/日曜日 10:30~11:30

解説員が常設展示室をご案内します。

※他の館内イベントとの兼ね合いでお休みする場合があります。

平成28年度の利用案内

■開館時間 9:30~16:30(入館は16:00まで)

■休館日 月曜日(月曜が休日の場合は開館、翌平日休館)

※10月3日(月)は臨時開館

資料整理日(9月1日~9月10日)

年末年始(12月29日~1月3日)

■入館料 一般310(140)円・学生140(70)円・高校生以下無料

()内は20名以上の団体割引料金

※9月19日(月・敬老の日)は65歳以上の方無料

※11月3日(木・文化の日)は無料

※学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は、申請により入館料免除となります。

※療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付き添いの方は無料です。

岩手県立博物館だより 第150号 平成28年9月1日発行	編集 岩手県立博物館 〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷34 Tel. (019)661-2831/Fax. (019)665-1214 発行 公益財団法人岩手県文化振興事業団 〒020-0023 盛岡市内丸13-1 Tel. (019)654-2235/Fax. (019)625-3595
------------------------------------	---